

次に、S T E A M教育について、伺います。

S T E A M教育とは、科学、技術、工学、芸術、数学の5つの頭文字から名づけられた教育方針で、各教科を通して、総合的な探究心や創造性を養うことを目的としており、未来を担う人材育成の重要な教育として注目されています。

このS T E A M教育が求められる背景には、社会での急速なデジタル化の進展で、あらゆるサービスやビジネスにI T技術が取り入れられていることがあります。

そのような中、S T E A M教育に取り組むことにより、1、文章や情報を正確に読み解く力を身につける。2、科学に思考、活用する力を身につける。3、新しい価値を生み出す感性と力を身につける。4、A Iやデジタル技術を使いこなす人材を育成する。5、学習の主体性を養うなどの効果が期待されています。

ここで質問です。

1点目、今後の社会で求められている創造力や問題解決力を身につけるためにも、S T E A M教育は必要であると考えますが、S T E A M教育への認識及び御所見をお伺いいたします。

文部科学省では、学校教育におけるS T E A M教育の重要性を啓発し、教育現場への浸透を図るためのガイドラインや資料を策定しています。

また、S T E A M教育に関するプロジェクトやイベントの実施を支援し、そして、学校や教育関係への補助金などを行っています。

そこで2点目の質問です。

本市のS T E A M教育の取組状況について、お伺いいたします。

今後、A Iの進化が急速に進む一方で、予測困難で複雑な社会課題が次々と起こってくると思われます。それらに対応するためにも、単なる知識の習得だけでなく、創造的な柔軟な思考、多様な分野を横断して考える視点が求められています。

そして、子供たちがこうしたスキルを身につけ、自信を持って未来に挑戦できるようになるため、S T E A M教育の教育環境を整えることが重要であると考えます。

そこで3点目の質問です。

本市はS T E A M教育をどのように推進し、どのように取り組んでいかれるのか御所見をお伺いいたします。

○議長（田窪秀道） 答弁を求めます。長井教育長。

○教育長（長井俊朗）（登壇） S T E A M教育について、お答えします。

まず、S T E A M教育への認識及び所見についてでございます。

現代社会におきましては、変化の激しい時代を生き抜くために、子供たちには知識の習得にとどまらず、課題を発見し、自ら考え、他者と協働して解決していく力が求められております。そのような中でS T E A M教育は、科学、サイエンス、技術、テクノロジー、工学、エンジニアリング、芸術、リベラルアーツ、アーツ、数学、マスマティックスの各分野を統合的に学ぶことにより、創造力や論理的思考力、また、表現力や問題解決能力を育成するものとして、重要な教育的手法であり、かつ、次代を担う人材育成において重要な取組であると認識しており、新しい学びの形として注目しているところでございます。

次に、本市のＳＴＥＡＭ教育の取組状況についてでございます。

総合的な学習の時間でも、一部で実践されておりますが、これ以外にも、住友重機械工業株式会社と連携し、小学生を対象としたＳＴＥＡＭ教育ワークショップやさしいミライの学校の開催、新居浜工業高等専門学校と連携した新居浜の未来を担う人材を育てる新居浜市少年少女発明クラブ事業、科学との触れ合いを通して豊かな人間性を育むために、不思議に思ったことや疑問に感じたことに関する研究を発表する新居浜市小・中学校科学奨励賞発表会など、教科横断的な学びの取組を実施しております。

次に、今後の取組についてでございます。

教科横断的な学習や探究的な学びを通じて児童生徒の主体的な学びを一層促進するとともに、地域や企業等との連携をより強化し、ＳＴＥＡＭ教育の一層の充実を図ることにより、児童生徒一人一人の個性や興味を尊重しながら、学びを自己実現につなげていけるよう努め、子供たちの未来を切り開く力を高められるよう教育環境の充実に取り組んでまいります。

○議長（田窪秀道） 高塚広義議員。

○１９番（高塚広義）（登壇） ありがとうございます。

御答弁にもありましたように、ＳＴＥＡＭ教育を推進する上で、企業や大学、研究機関などの外部機関との連携が効果的であると考えます。

今後とも積極的に連携していただくことを要望し、次に移ります。